

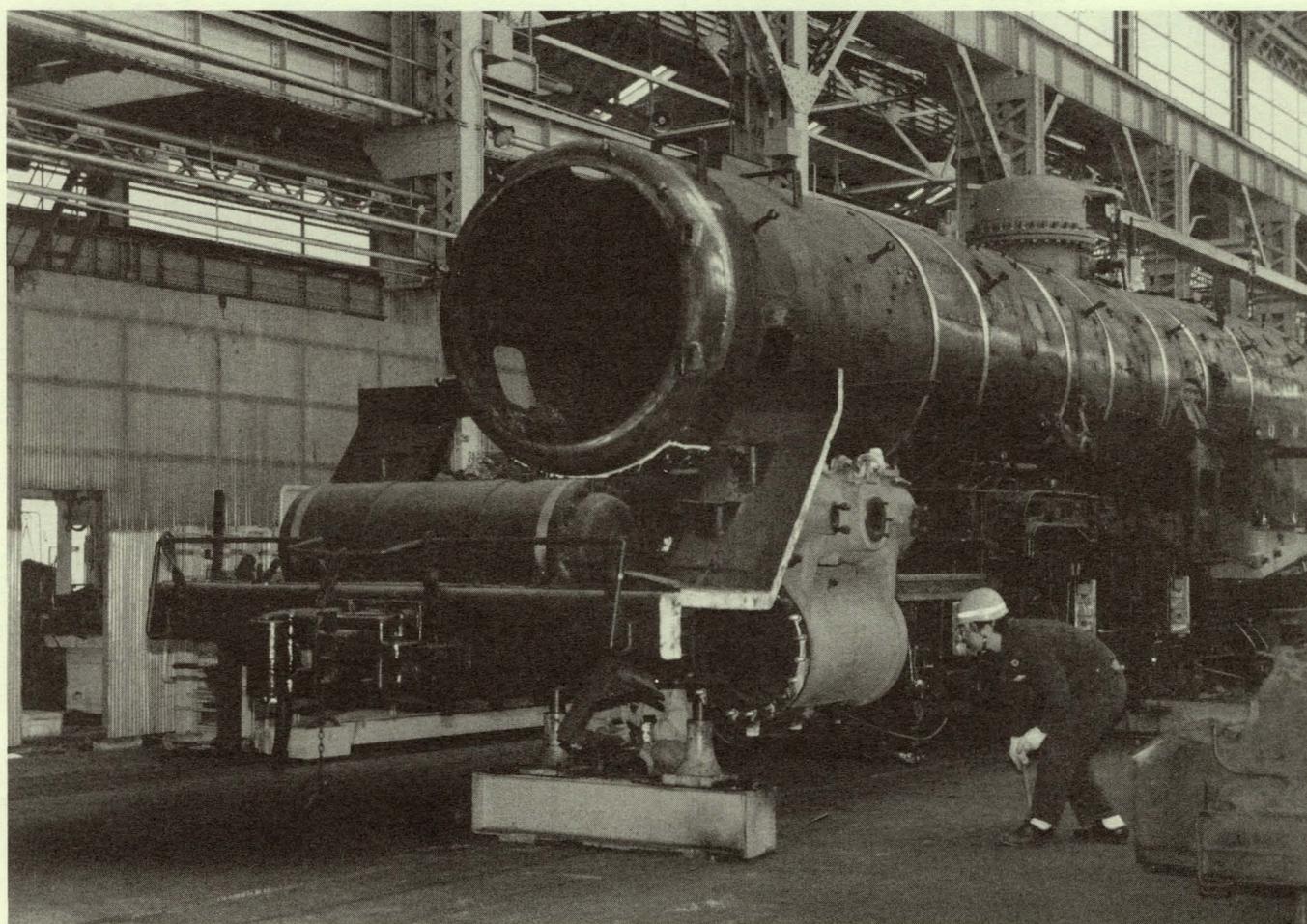
# RPSJ NETWORK

Railway Preservation Society of Japan

日本鉄道保存協会 会報  
1995 MAR. 創刊号

阪神淡路大震災お見舞い申し上げます

C57 1号が鷹取工場で被災  
やまぐち号はC56が代走



全般検査中に被災したC57 1号は、一時、存命が危ぶまれたが、西日本旅客鉄道株式会社の努力と全国の愛好者のエールのもと、修理されることになった。(写真提供 JR西日本)

いよいよ創刊!!

RPSJが1990年に設立されて以来、企画されていた会報を、おかげさまでやっと発行することが出来ました。急な原稿依頼にも快く応じてくれた会員や顧問の皆様に感謝申し上げます。今後も皆さんと力を合わせて誌面作りをして行きたいと存じますので、ご支援よろしくお願い致します。

# 顧問からの熱いメッセージ

## 保存鉄道と客車

青木栄一（東京学芸大学教授）

保存鉄道といえば、誰でも蒸気機関車の動態保存を思いおこす。蒸気機関車は保存鉄道の目玉であり、立役者である。名の知れた国鉄機だけでなく、森林鉄道の機関車や産業用機関車も保存され、さまざまな異なる性格の鉄道の蒸気機関車が残されているのはうれしい。近年は、電車や電気機関車の動態保存も各地で行なわれていて、保存対象が拡大しつつあるのもよいことだと思う。

一方、鉄道車両の中でも保存という面から比較的冷淡に扱われているのが客車と貨車である。明治・大正期の客貨車は一般に木造であり、昭和期に入っても薄い鋼板と木材による内張りで車体をつくる客貨車は、どうしても耐用年数が機関車にくらべて短く、気がついたならば貴重な客貨車の

大部分が消えてしまっていた。特に客車は乗客が直接に利用する車両であり、それぞれの時代の社会・文化が反映するものだけに鉄道文化財としての価値は、決して蒸気機関車に劣るものではない。

とはいうものの、古い客車そのものがあまり残されていないので、機関車の製造年代とはアンバランスな客車を用いざるを得ない現実がある。また、機関車史研究と比べて、客車史の研究はまだまだ及ばない面が多く、国鉄の標準型客車はとにかく、私鉄や軽便鉄道、森林鉄道などで活躍した客車となると、わからない点があまりにも多い。

客車の保存のあり方を再検討することは、今後の保存鉄道を考えてゆく上での大きな課題といえるであろう。

## 複眼的思考を

小池 滋（東京女子大学教授）

産業革命以来の技術発達の重要な記念物を保存して後世に残す仕事は、広い意味では「産業考古学」という学問に属する。この学問も、その名前も、ともにイギリスが発祥の地であり、いまではわが国にも「産業考古学会」という団体がある。

だが、この名前に「おや？」と思った人はいなかっただろうか。「考古学」とは本来、歴史学が扱うことのできるより以前の時代、字で記録された記録がまだない時代を調べる学問ではないか。

産業考古学が扱う時代には、字で書いた資料がわんさとあった。それなのに敢えて「考古学」と名づけたのはなぜか？ これを論じ出すときりがなくなるが、わたしには、いかにもイギリス人らしいユーモア感

覚がそこにちらと出ているように思える。

鉄道文化財の保存は、もちろん重要な仕事で、冗談や遊びでないことはよくわかっている。でも、だからといって、いつも肩を怒らせ目を吊り上げて、怒鳴ってばかりいたら息切れがして長続きしないだろう。考古学研究と考えるだけの心の余裕がほしい。

そして、このユーモアは、同時に、文献相手の研究ばかりの従来姿勢を批判して、フィールドワークを重視するという、新しい改革への意欲をも示している。わたしたちの運動も、こうした硬と柔を兼ね備えた、複眼的思考を持ち続けたいものだ。そうすれば次の時代の人たちに受け容れてもらえるだろうから。

## 会報の発刊によせて

松澤正二（元交通博物館副館長）

日本鉄道保存協会が発足して、5年目を迎えようとしておりますが、会員の皆様のご協力によって、会の内容が充実して参りました。

毎年行われております総会を兼ねた研究集會も、昨年は遠隔地と猛暑にもめげずに、多数のご参加があり熱心な討議が交わされたことは、その熱意の現われと深く感じました。

この度、会報の発刊にあたり、現場を持たない私として具体的に抱負などを述べるに戸惑っております。私は長い間博物館の業務に携わって参りましたので、博物館界は特に館の設立理念、運営形態、資料内容、活動範囲等々が多種多様であって、それらを協調させている日本博物館協会の苦

労をよく承知しているだけに、当協会も現在は会員数は少ないのですが、会員各位の多様性は同じ様相のようで、事務局もさぞ大変なことと推察できます。この度の会報の発刊は、それらを少しでも軽減できる潤滑油となるものとして、有意義であると思えます。

これからは皆様方をお願いしたいことは、共通する面においての問題点など数多くあることと思われ、既に研究集會のテーマとして、いくつかは取り上げられておりますが、さらに問題点の提議、研究成果の発表、創意工夫の開陳などの場として、この会報を大いに利用していただきたいことです。それが会報の存在意義であり、また立派に育てて行くことであると思えます。

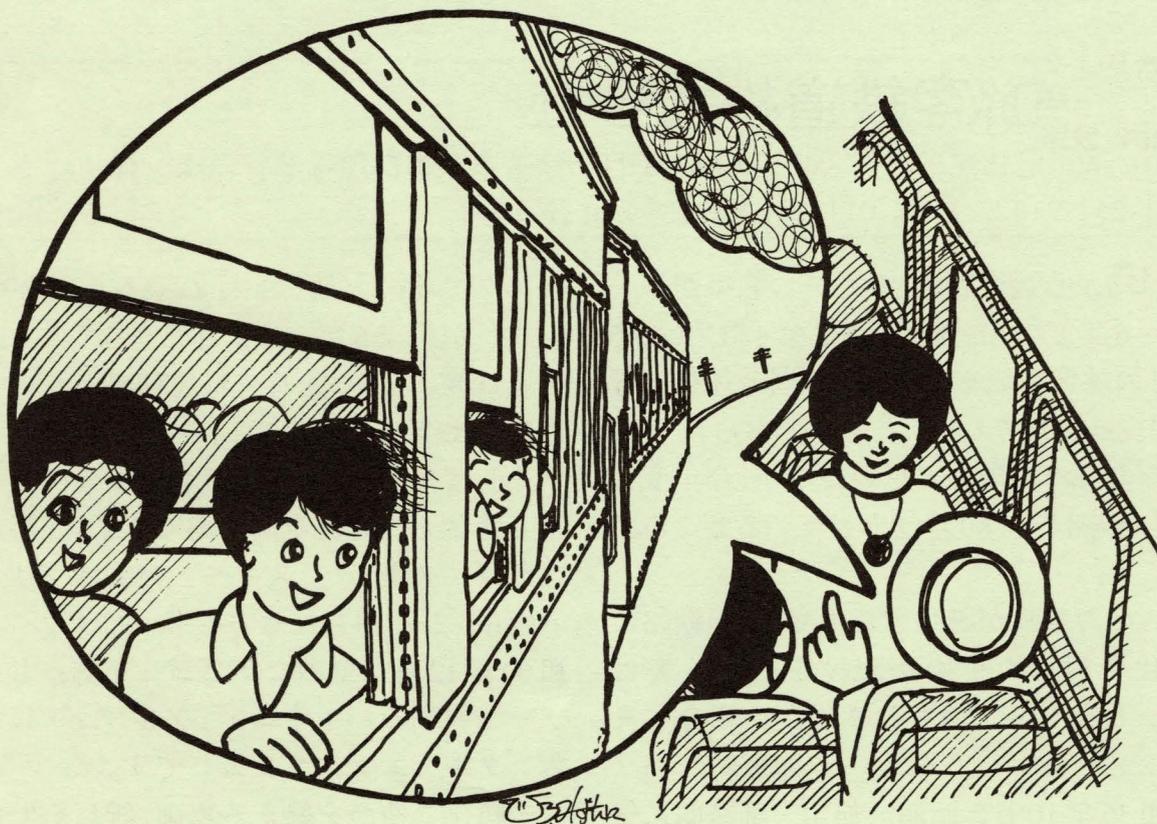


イラスト 水谷洋泰（JNT 会員）

## 丸瀬布町

〒099-02 北海道紋別郡丸瀬布町中町番外地 丸瀬布町役場産業課 工藤敏広

☎01584-7-2211 FAX 01584-7-2128

昨年は、協会の総会に遠路、丸瀬布町にお越しいただきありがとうございました。丸瀬布町は、今寒さが厳しく、氷点下20度以下になることもしばしばあります。また、今年は例年になく雪が多く、毎日除雪に追われています。

現在、「雨宮21号」は、昨年11月から冬ごもりに入っており、4月29日の「いこいの森」公園オープンを待っています。

開園以来15年間、「雨宮号」の運転手として活躍してきました山内金一さんが高齢のため、昨シーズンをもって引退し、代わって今シーズンから、十年程前から後継者として技術指導を受けてきた、小山君(35才)、上戸君(24才)の二人が、今後機関車の運転手としてがんばることになりました。

一昨年、寄贈していただいた「コッペル532号」と井笠の客車4両について、これまで動態保存が可能かどうか調査研究をしてきましたが、客車2両を今年夏頃までに修復することにしました。夏休みには、客車を引いた雨宮号が園内を走行する予定です。「コッペル532号」については、動態保存するのに多少時間がかかるとは思いますが、近い将来「雨宮号」と同様に、客車を引いた「コッペル532号」も、園内に走らせたいと考えています。

今年の総会は、石川県小松市において、開催されるとお聞きしておりますが、皆さんと再会できることを今から楽しみにしています。

## 北海道旅客鉄道株式会社

〒060 北海道札幌市中央区北5条西4丁目 鉄道事業本部運輸部管理課 藤井隆行

☎011-251-9142 FAX 011-251-9142 (切り替え)

北の鉄路から近況報告、また一つ名車が……

平成6年度のSL運行(C62-3号機)は、5月2日の練習運転を含め合計8回と運行回数には“少々物足りない”と思っておられるSLファンの方々も多いと思いますが、今年度の運行も無事に終わりホットしているところです。

最新型の車両が誕生する中で、北の鉄路に一時代を築いた車両が現役を終える姿はチョット寂しい思いもしますが、紹介します。

昭和36年10月、函館～旭川・釧路間に気動車特急「おおぞら」として北海道にデビューし、その後も「おおとり」「北斗」「北海」「エルム」「オホーツク」と懐かしいネー

ミングで北の大地を駆けめぐった“キハ80形式”が平成5年4月に「さよならキハ80」の運行後に定期・臨時の特急列車としての役目を終えました。

そして平成6年10月にも、後輩に後を託して使命を終えた車両があります。北海道といえば“スキー”、スキーといえば“リゾート列車”と連想される方も多いはず?…。昭和60年12月に鮮烈なデビューを飾った、リゾート列車のパイオニア「アルファ・コンチネンタル・エクスプレス」です。

老朽化で使命を終える車両、新しく生まれる車両、どちらも長く鉄道ファンに愛される車両であってほしいと願うものです。

## 三笠市（鉄道記念館）

〒068-21 北海道三笠市幸町2番地 三笠市役所経済観光部商工観光課観光係 進藤弘章  
☎01267-2-3181 FAX 01267-2-7880

まず保存車両の整備については、現在当市では実物車両を合計43両保有していますが、その中でも動態保存の蒸気機関車SL304号のボイラーの修理を春に実施し、今年もお客様を乗せて元気に走らせる事ができました。

また、展示車両で80系の特急気動車（キハ82、キハ80等）6両の塗装が剥げて傷んできているので、全面塗装を行い保存整備を図りました。その他の車両についても、保存状態の悪い車両から順に、年次的に塗装等の整備を図る予定になっています。

次に平成6年度に鉄道記念館では、次のとおりの行事を開催しました。

### ・三笠鉄道村平成6年度行事実施内容

#### (1) ゴールデンウィークイベントの開催

〔期間〕4月29日～5月5日

〔内容〕子供向けキャラクターショー

#### (2) 北海道軌道自転車レース大会の開催

〔期日〕7月24日（日）

〔内容〕旧幌内線鉄路2.5キロの距離を軌道自転車でタイムを競う全国的にも珍しいユニークなレース大会

#### (3) サマーフェスティバルの開催

〔期日〕8月14日～8月16日

〔内容〕子供向けキャラクターショーとミニ鉄道の運行

#### (4) 鉄道村フォトコンテストの開催

〔期日〕9月1日～11月30日

〔内容〕三笠鉄道村を題材とした写真の展示

#### (5) 冬のSL運行

〔期日〕2月5日（日）

〔内容〕全国的にも珍しい雪中のSL運行と写真撮影会  
・SLの運転（無料）

〔運転車両〕S304号蒸気機関車

〔運転区間〕鉄道記念館構内900メートルの往復運転

〔運転日〕4月29日～10月30日までの土、日、祝日  
と夏休み期間

〔運転時間〕日曜日、祝日、夏休み 10時～16時

土曜日 12時～16時

このような諸行事を開催していますが、なかでも8月に開催した北海道軌道自転車レース大会ですが、これは旧国鉄幌内線（昭和62年廃止）の鉄路約2.5キロを1チーム4人構成で軌道自転車をこぎ（2人でこぎ途中で交代する）その区間内のタイムをチームで競うというもので、実際の線路の上を走って競う（廃止線で線路が残ってないと出来ない）全国的にも珍しいユニークな自転車レース大会です。

また、2月に実施した冬のSL運行は動態保存中のSLとしては、珍しい雪中のSL運行とあって寒いなか大勢のSLファンやカメラマン等が集まり開催されました。

さて、今年度の主な近況報告については以上のとおりですが、次年度以降も現在所有している車両の整備や保存、そして皆さんに親しんでいただく鉄道記念館として諸行事の開催等を行っていきたいと思います。

## 北海道鉄道文化協議会

〒062 北海道札幌市豊平区平岸3条5丁目1-18 ハドソンビル別館 青木真美子  
☎011-833-9890 FAX 011-833-9891

・94年度の「C62運行基金」は3月2日現在7,480,107円と、過去最高額になりました。当協議会はこれを基礎にJR北海道とともに（3/4現在）95年度の「C62ニセコ」運行計画及び96年度以降のC62保存計画の策定作業中です。

今年度は現体制での「C62ニセコ」運行最終年となるため最大限の努力をして、「C62ニセコ」の運行にひとつのけじめをつけるにふさわしい内容にしたいと考えています。

・「C62ニセコ」運行の全貌とC623の足跡を総括するというコンセプトで（仮）「C623・軌跡」を編纂中です。

本書は、C623がたどった歴史を総括し、その文化財としての価値を後世に示せる内容にするというのが当協議会編纂委員会の方針です。これに対してはこのたび、JR北海道の全面的な協力を得ることができ、提供していただいた膨大な資料を現在整理中です。発売日等詳細については未定です。

## ウェスタン村（大高企業株式会社）

〒321-24 栃木県今市市栗原315-1 企画広報担当 森本 浩

☎0288-21-8731 FAX 0288-21-7093

ウェスタン村では、1993年5月より、1998年製ボールドウインの解体整備をおこなってまいりましたが、ようやく本年中にその整備を終了し、再びウェスタン村にその勇姿を見せる事になりました。日時等は、まだ

決定いたしておりませんが、その折にはよろしくお願いいたします。

お披露目の際には、現在稼働中のH.Kポーターとの連結も考えております。

## 財団法人 埼玉県北部観光振興財団

〒368 埼玉県秩父市熊木町8-15 秩父市役所 事務局担当 若林克明

☎0494-22-2211（内線240） FAX 0494-22-1363

### ・今年の運行について

73日の運行を予定しております。

### ・SL写真コンテスト

例年どおり実施予定 作品募集、9月ごろ

### ・SLカレンダー

発表予定11月ごろ（上記コンテスト入賞作品を使用の予定）

### ・SL写真展開催予定

コンテスト入賞作品展を予定

・平成6年度（第7回）SL写真コンテスト入賞作品展を平成7年3月6日～15日の間、国際観光会館の埼玉県東京商工観光事務所にて開催しました。平成7年度も実施予定です。

## 日本工業大学 工業技術博物館

〒345 埼玉県南埼玉郡宮代町学園台4-1 館長 鈴木 昭 担当 大石和太郎

☎0480-34-4111 FAX 0480-34-2941

本学の2109号機も早いもので、昨年12月15日、第2回目のボイラー定期検査を受けました。昨年は本学主催の第8回ミニSL大会をはじめとし、延べ10日ほど火を入れて運転しましたが、清缶剤、防蝕剤、缶水排出時の取扱い等万全を期したつもりでしたが、2回目の検査時に極く僅かながら煙管に錆がつき、大へんショックを受けました。

いろいろな角度から原因を究明したところ排水弁がボイラー底部よりやや高い位置に取付けられており、それより下の部分には排水しきれずに水が残ってしまいます。

その水分が長い間に、外気温の関係で少し

づつ蒸発して煙管に付着し、これが錆の原因と考えられます。

検討した結果、第3動輪のスポークの間をうまく合わせると、最低部にあるプラグを特殊なレンチで取りはずすことができるので、今後は排水直後に左右にあるこのプラグをとりはずしてポンプで排出し、そのあと鉄の棒にウエスを巻きつけて拭きとり、余熱で乾かせば解決するのではないかと考えています。今後はこの方法で対処してみます。

いづれにしても年数回運転するだけの動態保存は難しく、考えられるあらゆる手段をもって対処しなければならないと思います。

# 財団法人 日本ナショナルトラスト

〒100 東京都千代田区丸の内2-4-1 丸ビル414 事業課企画主任 松本恵子

☎03-3214-2631 FAX 03-3214-2633

今年の運転日 4/15・5/20・6/17・7/15・8/26・

9/9・10/7・11/25 いずれも土曜日に運転

区間 大井川鉄道 金谷―千頭間 (39.5km)

運賃 (SL急行料含む)

金谷―千頭 (片道 2,120円)

保有車両の編成

C12形 164号 SL、スハフ43形 2・3号客車、

オハニ36形 7号荷物合造客車

運行時間

金谷 12:45 発→千頭 14:05 着

千頭 15:30 発→金谷 14:05 着

近況報告

1994年5月 スハフ43形 2・3号の屋根布の取り替え工事

6月 C12の定期ボイラー点検

8月6～7日 鉄道サークルのボランティアによる客車の補修作業

8月27日 読売新聞取材

9月24日 NHK「週間ボランティア」取材  
1995年2月14日 管理運営打合せ

3月18～19日 鉄道サークルのボランティアによる客車の補修作業

・94年度も4月から11月まで8回の運転が行われ、乗客数の集計は1,625人、ボランティア参加はのべ137人でした。

昨年は、トラストトレインのボランティア活動が注目され、マスコミにいろいろと取り上げられました。特にNHK教育テレビで放映された「週間ボランティア」は反響が大きく、遠くは九州からのボランティアの方が駆けつけてくれました。また、ボランティアの皆さんによる床のリノリウムや座席の補修作業もかなりの効果を上げ、その状態は良好です。

今年度は4月と5月の運転日前に、スハフ43形客車2両を1両づつ、往年の特急色に塗り替えます。その場合、下地の処理には十分に手をかけ、塗料に硬化剤を入れるなどなるべく塗装が長持ちする工夫を考えています。

## 上松町

〒399-56 長野県木曾郡上松町駅前通り2-13 産業観光課商工観光係 原 浩志

☎0264-52-2001 (内線53・54) FAX 0264-52-2150

今年度の赤沢森林鉄道は、平成6年4月29日から11月3日の期間の内128日運行し、乗車人員は約54,000人でした。

昨年度の冷夏に比べ、今年度は好天の日が多かったため、観光客が大幅に増加し、乗車人員は昨年より30%の増となっています。

今年度行った活動の中で面白いのは、森林鉄道を使ったし尿処理作業でしょう。

赤沢森林鉄道の折り返し地点には、汲み取り式のトイレがあり、従来は人力で処理していたものを森林鉄道により運搬処理を行ったものです。

作業内容はボギー式の資材運搬車に、新たに購入した汲み取り用のポンプとタンクなどを載せ、折り返し地点のトイレの汲み取り作業を行い、汲み取ったし尿を起点の改札所付

近まで運搬し、バキュームカーに引き渡すというものでした。

遊歩道を散策する観光客が、し尿タンクを乗せて走る森林鉄道に笑顔で手を振っていましたが、何を運んでいたかは知らぬが花でしょう。

今後の課題として、現在活躍している機関車は、昭和30年代製造で静態保存されていたものを修復、運行を開始して8年を経過し、もともと老朽化していたうえに、運行回数増加に伴い部品の消耗も激しく、エンジンなどは旧式のため、部品が手に入らない状況となっています。そのため今後、現行通りの運行が困難になる事も予想されるため、当時の製造メーカーなどと相談し、機関車を新造することも検討しています。

# 虹の郷（財団法人 修善寺町振興公社）

〒410-24 静岡県田方郡修善寺町修善寺4279-3 施設課鉄道係 小川和博

☎0558-72-7133 FAX 0558-72-7222

虹の郷ロムニー鉄道  
車両

蒸気機関車 3両

・ERNEST.W.TWINING 1949年完成 G&SL  
ENGINEERING.LTD

・NORTHERN.ROCK. II 1989年完成  
RAVENGLASS &ESKDALE RAILWAY

・CUMBRIA 1992年完成 同上

ディーゼル機関車 2両

・JOHN.SOUTHLAND. II 1988年完成  
TMA ENGINEERING LTD

・CITY.OF.BIRMINGHAM 1992年完成 同上

普通客車 15両 定員1車両当り20名

車掌室付車イス用客車 3両 定員1車両当り  
車イス4台付添者4名

軌道延長 本線 2,335m

待避線及び引込み線 700m

軌間 15インチ (381mm)

駅舎 2棟 イギリス村 ロムニー駅  
カナダ村 ネルソン駅

ロムニー駅→ネルソン駅 1,335m

ネルソン駅→ロムニー駅 1,000m

機関庫 1棟 (イギリス村内)

転車台 1基

踏切 5箇所

運賃 片道大人400円

小人200円 (3才以下無料)

年間利用客 600,000人 (5年間平均)

年間入園者 900,000人 (5年間平均)

開業以来満5年、車両及び各施設の修理、修繕  
を本年は実施します。

又、本年3月25日～5月28日まで5周年記念  
イベント「花の園五年祭」を行います。楽しいイ  
ベントを準備しておりますので、ぜひご来園下  
さい。

# 大井川鉄道株式会社

〒428 静岡県榛原郡金谷町1112-2 副社長 白井 昭

☎0547-45-4111 FAX 0547-45-4116

## ◎近況

- 1、本年は創立70周年で重連多し。7月9日千頭駅でSL7両並び撮影会。
- 2、他のSL保存鉄道への協力を進めている。
- 3、他よりSLの貸出、検査の依頼が多くなっている。
- 4、SLの灯油併燃をテスト中。
- 5、スイス姉妹鉄道(SL)訪問、7月出発、参加歓迎。
- 6、10月2日、アプト式5周年、乗車120万人行事。
- 7、戦後50年でC56 44の取材多し。
- 8、ボイラ清掃の周期延長を研究中。
- 9、走れB6の記念乗車券を発売中、8枚890円の所を400円+90円で。
- 10、SLの各部クラック、メタル発熱など増えている。表彰もあり。
- 11、平成6年末、SL運転免許試験に1名合格。
- 12、平成6.11.28 NHK、列島ドキュメントで1275号SLの定検を放映、C11も出演。

## ◎総会への要望

- 1、各地の現況発表は簡潔に。
- 2、日本工大のB6復元の映画をぜひ上映してほしい。歴史的な作品であり、大変勉強になる。
- 3、総会は東京に近いところで、より多くの参加を。
- 4、毎年テーマを早く決めてほしい、前年の総会で議論し決定を。
- 5、今や技術伝承がカギとなっている、発表と議論の場を。特に失敗例や困っていることを。
- 6、営業的なことは成るべく文書報告を主にしてほしい。(集会は貴重な機会なので有効に生かしたい)(テーマの例)
  - 1、公害問題。
  - 2、石炭について。(品種、カロリー、特性、価格、仕入れなど)
  - 3、冬場のボイラ保存法。(湿式、乾式別)
  - 4、ボイラ大掃除の周期について。(複数テーマ、複合テーマも可)

# なつかしの尾小屋鉄道を守る会

〒923-03 石川県小松市符津町念佛3-1 石川県立小松児童会館内 会長 村田外喜男  
☎0761-43-1075 FAX 0761-43-1076

## 1. 活動状況

### ①平成6年5月6日

石川県立小松児童会館のなかよし鉄道の主力キハ1号車のトランスミッションが故障、運転不能となり、部品調達に苦労しましたが、ようやく同年6月28日に運転再開。この故障の間、車輛前後腐食部分の塗装補修に着手。その塗装作業に協力、会館より喜ばれました。

### ②平成6年7月20日～8月31日

会館の尾小屋鉄道記念展に文献・写真等を提供、開催に協力しました。

### ③平成6年10月20日

総会開催後、旧尾小屋鉄道跡地現地視察。全線16.8km・16駅のうち波佐羅より終着尾小屋までの5駅を見学。往時の駅跡を偲び、最後の尾小屋

駅で記念撮影。親睦を深めました。

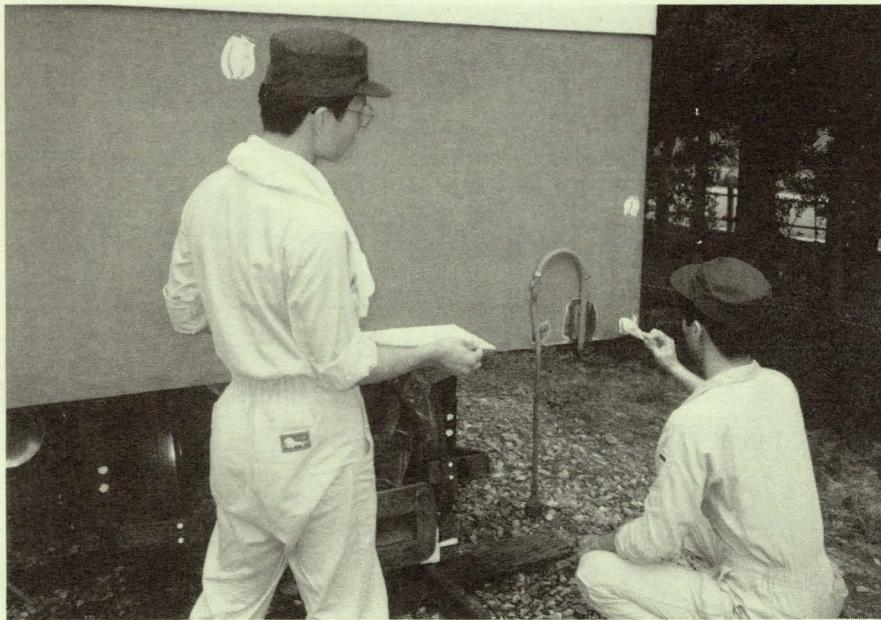
## 2. 日本鉄道保存協会総会の開催

平成7年度の総会が9月3日(日)～4日(月)にかけて小松で開催の予定です。

全国著名な17団体が加盟する内において、当会は旧尾小屋鉄道の車輛保存・維持管理について協力するボランティア団体でありますので、これまでの開催地の皆様方のように、行き届いた設定ができるか心配ですが、精一杯頑張りますので、主催される協会及び加盟団体方々のご支援をよろしくお願い申し上げます。

## 3. なかよし鉄道の利用状況

開通昭和59年8月1日～平成6年末までの11年間に、190,291人が乗車がありました。



キハ1号の塗装作業

※原稿締切後に、北海道鉄道文化協議会より、運行スケジュールについての追加入稿が有りましたのでここに掲載いたします。

- ・運転区間 小樽～ニセコ 72.9km
- ・定期運行日:10日間  
5/3(祝)、4(祝) 7/23(日)、30(日)  
8/6(日)、13(日) 9/23(祝)  
10/8(日)、10(祝) 11/3(祝)
- ・その他の運行日:1日間(練習運転)  
4/29(祝)(一般の方は乗車出来ません)

- ・運転時刻  
上り(臨客9262)  
小樽10:04発 ニセコ11:51着  
下り(臨客9263)  
ニセコ13:56発 小樽16:10着
- ・料金(小樽～ニセコ・座席指定料金含む)  
大人 1560円 小人 780円

## 東海旅客鉄道株式会社

〒453 愛知県名古屋市中村区名駅1-3-4 東海鉄道事業本部車両部管理課係長 天野満宏  
☎052-564-2461 FAX 052-564-2462

### 保存車両の定期修繕について

当社では、飯田線の活性化を目的として、中部天竜駅構内の「佐久間レールパーク」において、中部地方を中心に活躍してきた歴史的に価値がある数々の鉄道車両を展示・保存しています。

この展示車両の保存状態を将来にわたり、維持していくためには、やはり定期的な修繕が必要となります。特に「佐久間レールパーク」が山間部に位置し、気温の較差も大きく、また、冬季においては季節風が強く、若干の積雪もあることから、展示車両の外板や屋根部分の劣化がひどく、クラック等が多く発生しています。このままでは鋼体の腐食や天井部分からの雨漏れは避けられず、十分な保存が出来ません。さらに、直射日光などに

より車内の化粧板や椅子のモケット、カーテンなども色褪せてしまいます。

そこで今年度も、展示車両の計画的な修繕を現地にて実施しました。具体的には3年周期の定期修繕を閉館期に集中的に行うこととし、外板、内装、塗装、屋根等にわたる全般的なものとするほか、歴史的要素（標記文字等）を極力再現することとしています。また、展示車両を前述の気候条件から保護するため、今年度から閉館期は車両へのシート掛けを実施しました。これにより、保管状態の維持と修繕費等の低減が図れると考えています。

今後とも飯田線の活性化と文化遺産としての価値ある鉄道車両の保存を行うために、計画的な修繕を着実に推進していきます。

## 西日本旅客鉄道株式会社

〒530 大阪府大阪市北区芝田2-4-24 広報室主席 徳光郁夫  
☎06-375-8979 FAX 06-376-6053

平成7年1月17日、午前5時46分発生した「阪神・淡路大震災」により、鷹取工場内で全般検査など検査中の車両70両のうち、脱線したり横転をした車両が32両ありました。この脱線・横転車両のひとつが山口県小郡町と島根県津和野町を定期的に運行する全国でも数少ない「SLやまぐち号」として人気の「C57形1号機」です。

C57形1号機は、4年に一度の定期検査を実施するために、昨年12月4日から今年の2月8日までの予定で、工場に入っていました。この検査は、車体を解体して行う検査のため、機関車部分と炭水車部分に分けて検修用の仮受台に載せて検修中でした。しかし、この地震の影響で仮受台からはずれてしまい、機関車部分と炭水車部分とも傾いた状

態になりました。

このため、機関車部分と炭水車部分の下部にあるブレーキ梁などに曲がりが生じました。また、落下したボイラについては、外見の損傷はないものの、状態調査を実施するほか、主台枠の歪み調査なども行い、3月中旬以降、本格的に修復を行うことにしています。修復は、4月末にも終わる予定です。

なお、被災した「C57形1号機」については、運転を開始する3月25日までには修復が間に合わないため、京都市の梅小路蒸気機関車館で保存されている僚機、小型蒸気機関車「C56（愛称：ポニー）」が代走します。しかし、C56は57より一回り小型で力が弱いいため、ディーゼル機関車と2重連で、客車を牽引することにしています。

## 財団法人 明治村

〒450 愛知県名古屋市中村区名駅1-2-4 名古屋鉄道文化事業部課長 大谷招久  
☎052-581-2904 FAX 052-583-9287

村のSLは職員とともに、元気で頑張っています。

昨年9月には63番目の移築建造物「大明寺聖パウロ教会堂」が、完成しました。ザビエル教会堂を使ったクリスマスコンサートも好評でした。教会の持つ音響効果が、バイオリンの弦一本の音を隅々まで響かせます。若いカップルで溢れました。

平成7年3月18日、明治村は開村30周年を迎えました。この間3,600万人を越えるお客様にご来村いただき、明治の文化を内外に伝えて参りました。盛大な記念行事を行いたいところですが、昨今の経済情勢は村にも影響を与え、なかなか思うようにはいきません。先日も、ある会合に全国の博物館・美術館から関係者が120名ほど集まりましたが、

7割以上が公立の館からの出席という状況で、遠くへ出張できない私立の館の厳しさを実感しました。ここ2~3年、全国の入館者が下降を続けているとのこと。しかし、こういう時だからこそ、博物館活動の真価が問われる時です。無駄な事業を省き、長い目でみて必要なところにはしっかりとお金もかけないといけません。とりわけ保存、維持の観点からは、大切なことだと思います。

4月には、全国から選抜された8段以上の範士、教士による「明治村剣道大会」が19回目を迎えます。さらに「明治村茶会」は29回目となります。今年は鹿児島から「薩摩焼き」ガラス工芸「切子」が出品されます。回を重ねるにつれ、村の伝統行事の重みを感じています。

## 馬路村

〒781-62 高知県安芸郡馬路村馬梁瀬 馬路村役場馬梁瀬支所 魚梁瀬森林鉄道を守る会 事務局 清岡博基  
☎0887-43-2211 FAX 0887-43-2208  
〒781-62 高知県安芸郡馬路村馬路 馬路村商工会内 馬路村森林鉄道を走らす会 事務局 清岡博基  
☎0887-44-2108 FAX 0887-44-2108

馬路村の森林鉄道は、魚梁瀬<sup>やなせ</sup>森林鉄道を守る会（魚梁瀬地区）によって活動を行ってきましたが、本年度、別組織として馬路森林鉄道を走らす会（馬路地区）をつくりました。

魚梁瀬森林鉄道を守る会は、野村式、谷村式のディーゼル機関車の動態保存を行っていますが、6年度は鳥取県の旭木材工業から譲り受けた日本に一台しか現存しない岩手富士産業製特殊軽量機関車の復元を進めて来ました。修復は順調に進んでおり、7年5月頃までには走らす事が出来るものと思います。

一方、馬路森林鉄道を走らす会の方は、昨年7月に営林署のOB20名によって結成し、馬路村が村おこし事業として実施した、魚梁瀬森林鉄道の初期に活躍したポーター蒸気機関車を2/3に縮尺し、（動力はディーゼル、蒸気音を油圧で出す）復元して走らす観光事業の運営管理に当たっております。7年度にはインクライン（山の傾斜面に線路を敷いて台車に積んだ木材を搬出する装置）をイメージした無動力（水力による）ケーブルカー及び森林鉄道に関する資料を展示する森林博物館を建設する予定です。

# 九州旅客鉄道株式会社

〒 812 福岡県博多区博多駅前中央街 1-1 総務部広報課 東 猛

☎ 092-474-2541 FAX 092-474-3898

JR九州のSL「あそBOY」は、昭和63年8月28日に豊肥本線に登場して、今年で8年目を迎えます。登場からの走行距離は、約163,437キロメートルになります。

平成6年12月4日で今年の営業運転が終わり、一年間の疲れと今年の春からの営業運転に備えてメンテナンスを行うため、12月9日JR九州小倉工場（北九州市）へ入場しました。ここで約3カ月間、ボイラー修繕、連棒及びメタル修繕、安全弁及び分配弁の修繕等が行われました。検査は2月上旬までを要し、中旬に工場内の線路を使用して試運転を行いました。そして、3月1日熊本運転所へ向けて回送されました。

今年も、世界最大のカルデラ火山「阿蘇」の雄大な自然の中を駆け抜ける「SLあそBOY」に、ぜひご乗車下さい。お待ちしております。

今年の最初の運転日は、3月18日(土)・19日(日)となっています。以下

3/22~26・29~31

4/1・2・5~9・15・16・22・23・29・30

5/3~7・14・20・21・27・28

6/4・10・11・18・24・25

7/1・2・8・9・15・16・22・23・26~30

8/2~6・9~13・16~20・23~27

9/2・3・9・10・15~17・23・24・30

## 事務局から

### 平成7年度総会のお知らせ

・日時 9月3日(日)~4日(月)(予定)

・開催幹事団体

なつかしの尾小屋鉄道を守る会

・詳細は、決まり次第ご連絡いたしますので、ぜひご出席下さい。

### 平成7年度会費納入のお願い

・同封の請求書にて年会費12,000円のご請求を致しますので、よろしくお願い申し上げます。

## RPSJの賛助会員を募集いたします

RPSJの活動の一層の推進をはかるため、サポートいただける賛助会員を募っています。よろしくお願い申し上げます。

年会費 一口12,000円(4月~翌年3月)

特典・会報の発行

・総会への出席ほか

## C62 3号保存募金の受け入れ承諾!!

C62 3号の写真集を発行された上川庄二郎氏からの申し出により、C62 3号保存のための募金の受け入れを当協会が平成6年11月より行っております。

・写真集シロクニの小さな旅

上川庄二郎、山下和宣共著

## 本の紹介

・鉄道ゲージ戦争 岩波書店刊

小池滋(JNT会員)著 2,200円

・海外保存鉄道 JTB刊

白川淳(JNT会員)著 1,700円

## 編集後記

初めての会報いかがでしたでしょうか。今後も、内容を充実させていきたいと存じますので、会員の皆様からの情報やご意見、ご希望など、ぜひお寄せ下さい。